

## 第7回練馬区保育サービス検討会議要約

平成31年3月19日（火）午後6時45分から

会場：本庁舎7階 防災センター

傍聴者：1名

出席者 委員9名

事務局 こども家庭部長、保育計画調整課長、保育課長、栄町保育園長、調整担当係長

○会長 只今より第7回練馬区保育サービス検討会議を開催する。初めに、事務局から委員の出席状況の報告および資料の確認を行う。

○事務局 本日の出席状況は、委員10名中、現在の出席委員は8名である。過半数の出席を得ているため、会議は有効に成立している。

（資料の確認）

○会長 それでは、次第に沿って会議を進行する。教育長への報告について、事務局に進行をお願いします。

○事務局 本日は最後の会議になるので、鈴木会長から河口教育長へ、報告書（案）をお渡しいただく。なお、報告書（案）は、本日の会議でも可能な限りご議論いただいた上でまとめていきたいと考えている。

（報告書（案）のお渡し）

○事務局 会長より、ご挨拶をお願いします。

○会長 当、保育サービス検討会議へご協力をいただき、感謝する。委員の皆様にご尽力いただき、本日、報告書（案）をお渡しすることができた。現段階では案のため、本日もしっかりと議論を尽くし、より良いかたちでまとめていきたい。会議の発足当初は、練馬区の保育サービスの現状を把握するための様々なデータや提案を事務局から提出してもらい、どのように議論を進めればよいか手探りの状態だった。さらに、現状を認識するために、一部の委員は保育の現場へ足を運び、実状を確認するなど、熱心に取り組んでいただいた。会議は、グループ討議などの手法も取り入れるなど、委員の皆様から、区の仕組みがこのようになってほしい、こういったものがあれば便利で保護者の安心につながるのではないかとたくさんアイデアを出していただいた。私なりに、最大限、委員の考えを報告書案に盛り込んだ。

先ほど、教育長に報告書（案）をお渡ししたので、練馬区職員の皆様には、報告書（案）の中の「仕組みづくりの方向性」にある内容を着実に実現していただきたい。今後の検討の中で、早期に実現できるものから、長い時間のかかるものがある。また、実現可能性の有無もあるかと思うが、安心してこどもを預けられる練馬区の実現のため、私たちの思いを実りあるものにしていただきたいと思う。何卒よろしく願います。

○事務局 つづいて、教育長より、ご挨拶を申し上げます。

○教育長 只今、会長から報告書（案）をいただいた。保育サービス検討会議に検討をお願いしたのは、昨年3月だった。一年間、本日まで7回にわたり、会長、副会長をはじめ、委員の皆様には夜分のお忙しい中、また、お疲れの中にもかかわらずご参集いただき、熱心にご議論していただいたことを心から感謝する。

練馬区は、保育所の待機児童対策に全力で取り組んでいる。区内には大変多くの保育施設や保育サービスがあり、例えば、区内の認可保育園は、今年4月に165園になる予定である。認可保育園以外にも、小規模保育事業、家庭的保育事業、東京都の認証保育所、企業主導型保育事業などが開設しており、様々な保育施設や保育サービスが展開されている。会議においては、練馬区の保育施設等の利用者や、これから利用しようと思われる保護者が、区内のどの保育施設等においても安心してこどもを預けることができるように、「区内の認可保育事業等の運営状況を評価し「見える化」する仕組みづくり」と「保育サービスの利用者の相談や意見・要望に応じる仕組みづくり」についてご議論いただいた。仕組みづくりの前提として、①保護者と事業者が信頼関係を構築すること、②区全体の保育のレベルアップという目的をもつこと、③保育の質は、基本となる保育を保障した上で、独自の保育を大切にするものの3点について、ご議論いただいたと伺っている。区として具体的に施策を検討し、実施していく上で、大変重要な視点だと思う。今後、区の児童人口は減少していく予想だが、保育需要は増加している。多様な保育事業が増えるほど、どのような保育施設においても安心して預けることができることは、とても重要で大切なことだと感じている。改めて、ご議論いただいた内容について、区でしっかりと検討し、仕組みづくりに全力を注いでいきたいと強く思う。最終回となる本日の会議でも、報告書の中身についてさらにブラッシュアップすべく、議論を重ねていただけると聞いている。ぜひ、より良いものをつくっていただき、本日の会議の後、おまとめいただいた報告書を事務局にお渡しいただければと思う。委員おひとりお一人の練馬区の保育に対する熱い期待や思いをしっかりと受け止めて、具体的な仕組みづくりに結びつけられるよう取り組んでいくこととお誓いするとともに、今後も様々な場

面で、皆様方のご意見やご提案、ご指導をいただけますようお願いし、挨拶とさせていただきます。誠にありがとうございました。

○事務局 教育長は本日、他の公務があるので、大変恐縮だが退席させていただきます。

○事務局 これより会議の進行を会長にお願いする。

○会長 それでは、最後の会議となるので、議論を尽くしていきたいと思う。次第に沿って会議を進行する。第6回会議要約（案）について、事務局から資料の説明を行う。

○事務局（資料1について説明）

第6回保育サービス検討会議要約（案）について、委員の皆様にお送りさせていただいていた。ご意見のある方はこの場でいただきたい。ご承認いただいた後に、ホームページで公開させていただきます。また、会議資料についても原則公開となる。

○会長 前回の会議の要約（案）について、意見がなければそのまま公開としていただきたいが、いかがか。

（異議なし）

○会長 それでは、公開ということで事務局にお願いしたい。

つぎに、第6回会議での主なご意見についてと報告書のまとめについて、事務局から一括して資料の説明を行う。

○事務局（資料2-1、2-2、3について説明）

○会長 前回の会議で行った見える化する仕組みづくりの議論の内容を資料2-1でまとめ、意見・要望に応じる仕組みづくりの議論の内容を資料2-2でまとめてもらった。報告書（案）はページ数が多いので、若干、範囲を区切って事務局に内容をご説明いただき、ご意見をいただきたいと思う。まずは、報告書かがみの1ページから4ページまで、事務局から説明を行う。

○事務局（報告書かがみの1ページから4ページまでについて説明）

○会長 報告書かがみの1ページから4ページまでについて、意見をいただきたい。

（意見なし）

○会長 つぎに、報告書かがみの3(1)の別紙1について、事務局から説明を行う。

○事務局（報告書かがみの3(1)の別紙1について説明）

○会長 報告書かがみ3(1)の別紙1について、意見をいただきたい。

○委員 資料の構成を確認したい。教育長への報告の仕方としては、別紙1で概要を報告し、個表で詳細をお読みいただくのか。

- 事務局 報告書の別紙扱いとして、見える化する仕組みづくりの概要をまとめ、個表①から④までのさらに具体的な仕組みづくりの方向性も一体として報告書に盛り込み、教育長へ提出していただく。
- 会長 内容以外のデザインなども含めて意見はあるか。
- 委員 見える化の工夫が端の方にあり、いつ削られてもいいような場所にある気がする。どのような意図があるのか。
- 事務局 ①から③までは、見える化の工夫を盛り込み、方向性として今後検討していく。④を除外する意図はない。これまでの議論の中で、見える化の工夫として、ビジュアル面や保育施設等の温かみが伝わるようにとの意見があった。認可保育所に特化せず、並列で表記をする工夫が必要との意見もいただいた。見える化の工夫を枠囲みで強調することで、忘れずに今後検討してほしいとの意味合いで掲載している。もう少し強調できるようにとのご意見かとも思うので、検討させていただく。
- 委員 一つの案があり、矢印で、そうでない方がよいとの意見もあるといった書き方をしている。会議としてどちらの方向性が良いかをまとめずに、判断はお任せするということか。
- 事務局 委員の皆様の発言に対して、これは違うと事務局で判断せずに、委員の生の声を記載している。一つの方向性に定めるのではなく、委員の皆様から様々な意見があったことを個表に記載させていただければと思う。報告書をいただき、新年度に具体的な取組を検討する中で、両者の視点からしっかり考える。委員の皆様には、具体的な取組はこうしていきたいので、議論のこの部分を強調していくといったことを適宜報告できればと思う。個表では、意見を漏らさずに記載したい考えである。
- 委員 ①から④までの仕組みづくりを誰が行うかが触れられていないと思う。①②が仕組みづくり、③が各保育施設等と保護者の間の見える化で、④が見える化を支える仕組みづくりであり、区の働きかけは④のみに見える印象がある。
- 事務局 仕組みづくりの基本となる考え方として、保護者と事業者、事業者間、保護者間を総括して④で区もしっかり支えていくとしている。仕組みづくりの基本として、練馬区の支援がベースにあることは認識している。見せ方の工夫を検討したいと思う。
- 委員 例えば③のICTの活用は、④にも入る気がする。記載されていないことで、区は何もしないよう受け取られるとよくない。
- 会長 つぎに、報告書かがみの3(2)の別紙2について、事務局から説明を行う。
- 事務局 (報告書かがみの3(2)の別紙2について説明)

- 会長 報告書かがみ3(2)の別紙2について、意見をいただきたい。
- 委員 練馬区から出る矢印は、一方的でよいのか。支えることを表しているのだと思うが、事業者や保護者からのものも加味するニュアンスであれば、双方向の矢印でもよいのではないかと。
- 事務局 区が支えることを強調する意味で、一方向の矢印としている。これまでの議論や今のご意見から、事業者や保護者からのフィードバックもあるので、矢印を双方向に修正できると思う。
- 委員 資料の今後の使われ方について、保育園と保護者間でコミュニケーションを深めることで課題が解決できそうと提示されているが、今後、保育園に対して、内容は情報共有されていくのか。
- 事務局 報告書をいただき、新年度に実現可能性の有無なども検討し、取り組みやすいものから事業者や保護者の皆様にお伝えして取り組んでいきたい。
- 委員 ①から⑤まで数字が振られているが、重要度的に保護者間のコミュニケーションアップ・情報共有が最初にあり、その後に、保護者と事業者の相互理解へと続く印象を受ける。番号を振ることに他意はないと思うが、どうにかならないか。
- 事務局 ①から⑤の順番で進む意味ではない。大別すると、①から④までは、園内で解決する仕組みづくり、⑤は園内で解決できないことに応じる仕組みづくりである。数字ではなく、A B C D、アイウなどとすることを検討したいと思うがいかがか。
- 委員 特に、①と②が引っかかる。保護者と事業者の相互理解が一番大事なのではないか。保護者間のコミュニケーションアップは不可欠とは言わないが、図れると良くなる点だと思っていた。
- 会長 番号を付けずに丸のみとする方法もある。
- 委員 ①と②を入れ替えれば良いのではないかと。
- 事務局 ①から④までは、並列で記載しているが、特に、②の強調が必要なのではないかとのご意見をいただければ、そのかたちでレイアウトを工夫したいと思うがいかがか。例えば、①から③までは菱形のマークにして、④は四角、⑤は丸など、工夫させていただければと思う。
- 会長 最後に、報告書全体を通して意見はあるか。
- 委員 今後、保育園にこどもを預ける親が増え、練馬区も様々な保育サービスがあることを伝えることで保育サービスの質を上げて、保護者も色んなことが得られることがポイントだ

と思う。保護者が安心して保育サービスを利用することができるようにすることが、報告書の後ろの方にあるが、練馬区には様々な保育園があることを保育園へも伝えて、保護者に使ってもらおうとすれば保護者も楽になることを前の方にうたえないか。

○事務局 保護者が選択することで、事業者の保育の質が上がり、保護者の安心が生まれるように、との主旨で保育サービス検討会議をスタートした。区としては、報告書を受け、実現可能性のあるものから取組を選択し、仕組みをつくっていききたい。会議でいただいた貴重な報告書を活かして取組を展開していききたい。

○委員 取組が多岐にわたっていて、保護者と事業者間、保護者同士のコミュニケーションの取組だけでもたくさんある。来年度の申し込みの対策を保護者は取り始めていると思うし、今年、保育園に入れなかった方たちも、来年に向かって頑張っていかなければならない。そのような中で、何を一番に優先して、何の情報を提供していくのか、整理して見極めることが大事なのではないか。

○委員 練馬区の保育サービス検討会議で招集され、討議してきたことは十分承知しているが、報告書のサービスという言葉に対して、保育はそもそもサービスなのかという疑問をずっと持っていた。サービスは提供するものになるので、事業者が保護者に対して提供するという捉え方になる。討議された内容はそうではないが、実際に報告書が外に出たときに、やはりサービスという言葉は、お金で買って提供してもらうものというニュアンスが出てしまうのではないかと懸念する。そうではなく、生活で困っている、働いていて保育が必要なことが伝わるようなかたちの中で、これまで討議されたものが活かされて欲しい。

○事務局 今後、どの項目に着目して精査していくかのご意見について、広がりのあるご意見を、一定の方向性としてまとめた。例えば、別紙2については、②が特に重要ではないかとの議論もいただいた。今一度、議論の中身を精査して、何が大切で、最初に取り組むべきものは何か、新年度に検討して、実現可能性のあるものから取り組んでいきたい。

保育サービスという言葉を使っているが、区の様々な計画の中でも、行政サービスという捉え方をしている。委員からいただいた、そもそもサービスなのかのお話は、一定ご意見として承らせていただければと思う。

○委員 サービスなのかとの意見は分かる。検討途中で、大泉の保育施設で痛ましい事故が起こり、認可保育園でないとはいえ、保育サービスで起きた事故である。認可保育園で起こらないかと言えば、多分あり得ない話ではないと思う。そういった事故も見える化することにより防げるのであれば、これから保育を選ぶ人よりも、もっと喫緊の重大な課題かもしれな

い。そのような意味では、別紙2の保護者と事業者の相互理解という言葉も少し足りないかもしれない。理解するだけでなく、お互いに変わっていくための改善や、促し合い、分かり合って信頼関係を結ぶことからさらに一步進んで、より透明度が高まり、保育の質が上がっていくような関係でないといけないとの思いもある。

○委員 内容について認識と違うところがある。別紙2個表②保護者と事業者の相互理解の三つ目で、各保育施設等の取組の水準を統一するとある。意見が出たことは間違いないが、認識としては、別紙1の見える化の検討で、個表①の「区立保育園についてのご案内」のページに倣い、各保育事業が実施している行事等のページを掲載すると記載がある。この検討をしたときに、各保育施設等で行っている取組や行事に限らず、最低水準の統一化とその公開について話し合った気がする。各保育施設等の取組の水準を統一して足並みを揃えた上でそれを公開する意味で、見える化にも入れた方が良いのではないか。

○事務局 見える化と相談や意見・要望は、共通する話が多くあった。別紙2個表②各保育施設等の取組の水準を統一するは、確かに、第4回の会議で行った見える化のグループ討議の中で出た項目でもあるので、ご指摘のとおり、別紙1個表①の冊子『保育利用のご案内』についてへ加筆させていただく。

○会長 専門的な知見として、副会長からも意見をいただきたい。

○副会長 本日もたくさんのご意見をいただき感謝する。多くの貴重な意見が報告書としてまとまってくると、会議の中で我々が大事にしたいことは何かをもう一度確認する必要を私も感じた。安心して保育サービスを受けられることと、保育の質が上がることをとても大事に検討してきたのではないか。そのことを報告書の中でもう少し強調できるようなかたちで表記できないかとの意見も挙がった。まさしく、会議の中で確かに大事になってきたところだと私も思った。また、サービスという言葉には色々な捉え方があり、その意味を会議の中でどのように捉えていたのかの問題提起がなされた。委員の中では、どのようなベースの上でサービスを捉えていたのかをきちんと表すことの必要性が確かにあることが最後の会議で出されたことはとても貴重だと思う。会議の中では前提となる考え方が共有されていても、外に向けて出されたときにどのように捉えられるのか、もう一度考えて言葉を選び、報告書の中に、サービスの捉え方や会議で大事にしてきたことは保育の質が上がること、全てのことも保護者も安心して保育を受けられることが基盤となり、検討が進められてきたことを強調して伝えるためにはどのように仕上げれば良いかが重要だと思いながら、ご意見を伺っていた。会議で一番大事にしてきたことが伝わるような報告書になると良いとの意見も出た。

貴重な意見が出たので、今一度整理して、報告書がさらに良いかたちでできるのではないかと感じたので、報告書の整理に活かしていければと思う。

○**会長** 本日まで活発にご議論いただき感謝する。本日いただいた意見は、副会長、事務局と相談して、文言を修正したうえで皆様にお送りして確認していただき、お送りしたものををもって報告書としたいと思う。その際、修正をされたい箇所があれば、事務局に連絡をいただければと思う。基本的には、お送りしたものを報告書とする、そのようなかたちで進めてよろしいか。

(異議なし)

○**会長** 最後に、事務局からお知らせはあるか。

○**事務局** 本日の会議要約は、事務局でまとめ次第、委員の皆様にもメールでお送りし、一定の期限を設けてご意見をいただき、会議資料とともにホームページで公開予定である。

また、報告書(案)は、本日の会議の議論を反映したかたちで会長と副会長に相談し、最終的な報告書としてまとめていきたい。修正等のご意見があれば、3月25日までにメール等でいただきたい。最終的に完成した報告書は、委員の皆様にお送りし、新年度から具体的な取組を検討していきたい。

○**会長** 質問や意見のある方はいるか。

○**委員** 報告書(案)別紙2個表④に、事業者による職員の労務管理との記載がある。保育サービスだからと保護者がどんどん要求して事業者が大変になることは、容易に想像できる未来だと思う。業界水準より安い給料で働く保育士の人権や生活を尊重することを保護者側も始めないといけないことを強く認識しなければならないと改めて思う。

○**会長** 改めて、第1回から一年間をかけて、本日で第7回の会議を終える。委員の皆様におかれては、お忙しい中、夜の時間にもかかわらずお集まりいただき、お力添えを賜り、なんとか報告書をまとめる運びとなった。会議は、多様な保育事業の事業者委員と実際に保育施設等を利用している保護者委員の様々なお立場からの非常に熱心なご意見があり、私にとっても大変勉強をさせていただいた。練馬区内の全ての子どもたちのために、区内の保育事業全体が充実し、発展されていくよう願っている。これまで会議を支えていただいた、副会長をはじめとして、委員の皆様方、事務局の皆様方に、心より御礼申し上げます。

それでは、以上をもって、閉会とする。

※文体はすべて「である」体、または体言止めに統一する